「友松」の変遷 Ⅱ

2011.1.14　発行
シリーズ 2－9
「友松」44 号

第44号　友松会報　昭和33年1月15日（水曜日）

友松

年頭所感
会長 小林梅茂（大四一年）

謹賀新年
会員各位の御発展と御健康を祈念いたします
元旦
神奈川県友松会
役職員一同

縁
客員 岩下富蔵
東京都太田区田園調布三ノ三

昭和三十三年！

今年の抱負

川崎支部

平塚支部

戸塚支部

盛んにな

発行所
横浜市西区紅葉丘五三
横浜市教育会館内
神奈川県友松会
電話 ❸8589番
振替口座 横浜359番
編集人　森田誠太郎
発行人　西川豊吉

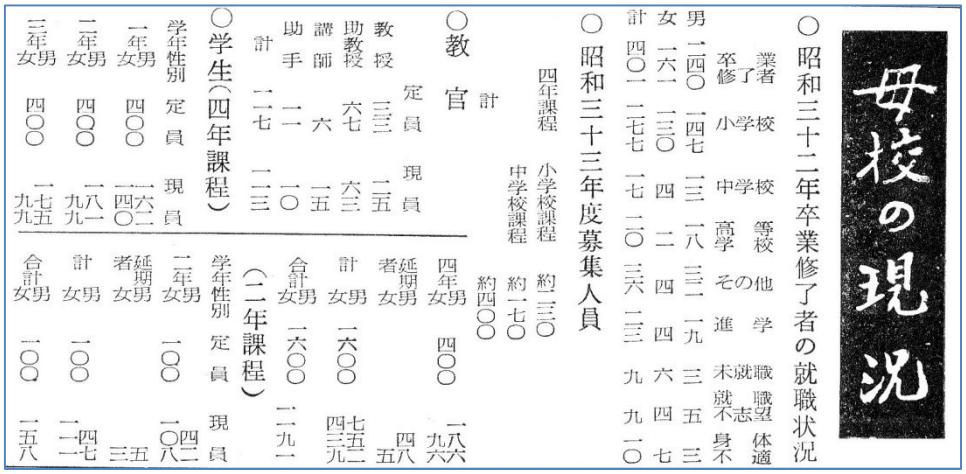
昭和３３年発行の 44 号は、他の号より傷んでいて、触ると破れそうな状態になっている。

会長の年頭所感を読むと「会費納入会員が 5,000 名を突破したのを機に、広く全会員の希望を会の行事面に反映させる」と述べている。また「女子会員の動きが活発化し、各支部共その出席者が増加の傾向にある」とも記している。

当時、一般社会情勢が一段と平静となる裡に、政治・社会問題として「教育のこと」が大きな中心点になっていたようである。

右の「母校現状」をみると、卒業生の 90% 近くが教員として就職している。その内 80% が小学校の教員になっている。中・高校への就職者は少ない。

国大への入学状況は、4 年課程は 400 名の定員に対して 302 名と定員に達していない。一方、2 年課程は 100 名の定員に対して 150 名とオーバーしている。


母校の現況

○昭和三十二年卒業修了者の就職状況

業者	小学校	中学校	高等学校	その他	就職者	就職望者	就職不適
男	二四〇	一四七	一三	一八	三一	一九	三五
女	一六一	一三〇	四	二	四	四六	四七
計	四〇一	一七七	一七	二〇	三六	二三	九九

○昭和三十三年度募集人員

	小学校課程	中学校課程
	約一三〇	約一七〇
計		約四〇〇

○教官

	定員	現員
教授	三三	二五
助教授	六七	六三
講師	六	一五
助手	一一	一〇
計	一一七	一一三

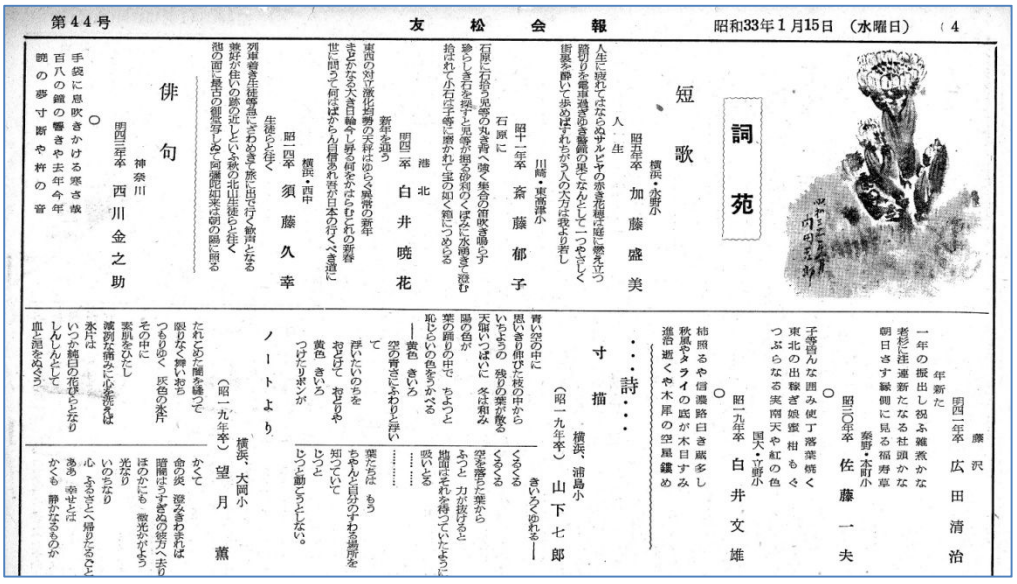
○学生（四年課程）

学年性別	定員	現員
一年男	四〇〇	一六二
一年女		一四〇
二年男	四〇〇	一八一
二年女		九九
三年男	四〇〇	一七五
三年女		九九
四年男	四〇〇	一八六
四年女		九六
計男	一六〇〇	七五二
計女		四三九
合計男	一六〇〇	四八
合計女		五五

○学生（二年課程）

学年性別	定員	現員
二年男	一〇〇	四二
二年女		一〇八
延期者男	一〇〇	四七
延期者女		三五
計男	一〇〇	一一
計女		一一
合計男	一〇〇	一一
合計女		一五八

昭和３０年代の「詞苑」には、毎号、短歌・俳句・詩等が多くの紙面を割いている。「東北の出稼ぎ娘蜜柑もぐ」「子等皆んな囲み使丁落葉焼く」「東西の対立激化均勢の天秤はゆらぐ異常の新年」これらの作品は、時代を反映したものではないだろうか。


第44号　友松会報　昭和33年1月15日（水曜日）　4

詞苑

短歌

俳句

詩・・・

寸描

ノートより